



ふれあい

発行所：鳥取県人権教育推進協議会（県人教）

〒680-0846 鳥取市扇町21番地

鳥取県立生涯学習センター 県民ふれあい会館内

TEL：0857(22)0578 / FAX：0857(22)0593

URL：http://torikenjinkyousakura.ne.jp/

発行者 岡崎 周治

第46回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会

第3回企画運営委員会をオンライン開催

～第46回の総括と第47回研究集会に向けて～

10月26日(火)に第46回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会「第3回企画運営委員会」をオンラインで開催しました。そして、「書面開催」となった本年度の研究集会の総括と、次年度第47回研究集会の実施計画案等について協議しました。例年は、研究集会の参加者へのアンケート結果も含めて総括をしますが、本年度は「書面開催」としたため、それができませんでした。そこで、県人教加盟団体と研究集会に関わる各委員の皆様にはアンケートをとり、その結果を基に報告しました。アンケート結果の概要は、次のとおりです。



○本年度の研究集会について

コロナ禍により「書面開催」となったが、実施計画の内容やコロナ感染症予防対策など、おおむね良かった。特に分散型で時間短縮、近くの会場となったことが良かった。しかし、会場毎に内容が異なったという課題があった。そこで、講演や報告を統一し、オンラインによる配信を望む声もあった。また、「書面開催」という判断も適切かつ、決定も早く良かったという感想もあった。

○来年度の研究集会について

参加者同士の意見交換や実践交流の場として、通常どおり1日開催を望む声が多かった。そして、通常どおりの1日開催で計画し、コロナ禍の状況に対応した第2案3案等の計画も必要であるという意見もいただいた。さらに、多くの人が参集しての「対面形式による学び」から、「オンラインによる配信」にして、学習の機会を提供すべきだという意見や、オンラインによるデメリットも協議しておく必要があるという意見もあった。

次に、このような意見を基にして、来年度の第47回研究集会の実施計画を提案しました。

まず、第1案を、通常どおりの1日開催(講演と実践報告2本、4分科会8分散会)とし、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、第2から第5案の計画とその判断基準を提案しました。その案の概要は右のとおりです。

その他に、分科会(分散会)や委員会の構成、年間計画等の協議も行いました。委員の皆様には、このような事務局の提案に賛同していただきました。

今後は、コロナ禍の収束を願いつつ、本研究集会の目的の達成に向けて、様々な情報収集と関係機関との連携を図りながら、実施内容や計画をさらに検討していきたいと思っております。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

第47回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会実施計画(案)

案	鳥取県版 新型コロナ警報	内 容 等					
		開催日	開催行事	基調提案	講演	実践報告	討議
第1案	発令無し	1日開催	○	○	○	○2本	○
第2案	注意報 or 警報	1日開催	主会場から各会場に オンライン配信			○2本	○
第3案	注意報 or 警報	半日開催				○1本	○
第4案	警報	半日開催	オンライン	書面	オンライン	書面	×
東中西の3会場で(同日 or 別日)開催							
第5案	特別警報	集合無し	×	書面	オンライン	書面	×

注)これらの案はあくまで「案」であり、決定ではありません。

決定は、実行委員会の決議後(2022年5月)以降になります。



オンライン会議について

事務局では、オンライン会議への招待を受けての参加は、何度か経験してきましたが、会議を主催したことはありませんでした。そこで、今後の With コロナに向けて、事務局としてもオンライン会議の主催が出来るように、まず、10月26日の第3回企画運営委員会をオンライン開催とし、それに向けて9月頃から準備を

始めました。オンライン会議は Web 会議システム Zoomで行うことにしました。しかし、この Zoom の無料プランには、使用時間と参加人数などの制限があるため、有料版プランにアップグレードしました。そして、事務局と館内の少し離れた会議室を使って、模擬会議を何度も開催するなど、試行錯誤しながら会議の主催の方法を習得(?)し、何とか無事にオンライン会議を開催することが出来ました。

しかし、次年度以降の研究集会でも全体会や講演を別会場にオンラインでの配信となれば、事務局だけの力では難しく、オンライン会議の構築やトラブルへの対処などのノウハウのある方に役員になっていただくか、業者に委託する必要があると感じました。また、今回のようなオンライン配信は、事務局だけの力で何とかりましたが、主会場で行われる講演等を各会場へオンライン配信することを業者に委託すると、多額な費用が掛かることも分かりました。



第46回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会 「書面開催」として『記録集』を発刊

第46回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会は、コロナ禍により「書面開催」としましたが、その「書面開催」とするための『記録集』を発刊することができました。それから、開催当日に各会場に参加者の皆様にお配りする予定だった『討議資料』も併せて、11月上旬に参加予定者に、届けさせていただきました。

この『記録集』は、講師や報告者の皆さんが、講演や報告の場で、実際に話される原稿や資料の提供をしていたり、別日に実際に講演をしていただいたりするなどして作成した冊子です。講師や報告者の皆様に感謝申し上げます。

そして、講演や報告の概要は、「県人教だより『ふれあい(第175号)』で紹介しましたが、この『記録集』は、研究集会当日の講演や報告とほぼ同じ内容になっています。

「書面開催」ですので、参加者が一堂に会しての「実践の交流」はできませんでしたが、しかし、『記録集』の巻頭で、岡崎実行委員会会長が「参加を予定していた方々には、書面で報告いただいた講演内容や報告内容を精読いただき、本県の部落問題をはじめさまざまな人権問題解決への取り組みの指標として活用し、自らの実践の糧にしていきたいと願っています。」と述べています。

是非とも、この冊子をもとにして、「人権尊重社会の実現に向けて」学びの輪を広げていただきますようお願いいたします。

『記録集』の掲載内容

- ◆巻頭 「記録集発刊にあたって」 実行委員会会長
- ◆開会行事 (主催者挨拶、基調提案、日本女性会議 PR)
- ◆西部会場
 - 講演 いま、ここ“を知るために
～ドキュメンタリー映画を上映する理由～
部落解放同盟西部地区協議会
女性部長 坂田 かおり さん
 - 報告 「いきいきフェスタ」に関わって分かったこと、
そして願い～人権劇団「チームえがお」の活躍と
人権啓発の仕掛け～
米子市五千石地区人権・同和教育推進協議会
会長 湯原 剛文 さん
- ◆中部会場
 - 講演 男女共同参画社会の実現に向けて
鳥取県男女共同参画センター「よりん彩」
所長 権田 正直 さん
 - 報告 差別の現実がわからなくても人権教育は
成立するのか
鳥取県立鳥取中央育英高等学校
教諭 岡垣 祐二 さん
- ◆東部会場
 - 講演 人権教育とは何か？
(公社)全国人権教育研究協議会
副理事長 福田 和博 さん
 - 報告 ようこそ ふらっとカフェへ
～対話で始める人権学習～
(公社)鳥取県人権文化センター
専任研究員 中江 美紀 さん
- ◆資料 市町村別申込者数・会場別役員・各種委員
- ◆あとがき

第72回全国人権・同和教育研究大会（新潟大会）

第72回全国人権・同和教育
研究大会（新潟大会）

『報告・資料集』の購入ありがとうございました



第72回全国人権・同和教育研究大会（新潟大会）は、2020（令和2）年に計画されていましたが、コロナ禍により本年度に延期されました。しかしながら、コロナ禍の収束にはならず、大会本部は「全体会・分科会・特別部会は開催せず、大会資料（報告・資料集）をもって大会の開催とする」という苦渋の決断をされました。

2度にわたる延期・中止（書面開催）となりましたが、開催に向けて多くの費用をかけて準備を進めてこられたため、（公社）全国人権・同和教育研究協議会（以下：全人教）と地元新潟県実行委員会にとって大きな財政負担となっています。

そこで、その支援をするという意味も込めて『報告・資料集』の購入を県内の関係機関団体に呼びかけさせていただいたところ、お陰様でたくさんの方々に購入していただきました。感謝申し上げます。

引き続き、県人教並びに全人教の活動につきまして、ご理解とご支援をお願いいたします。

第72回全国人権・同和教育
研究大会（新潟大会）

『報告・資料集』には、本県の実践も掲載

コロナ禍により、第46回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会は「書面開催」という形になりましたが、この研究集会の西部会場と中部会場で報告をしていただく予定にしていた右のお二人のレポートを、上記の『報告・資料集』に掲載させていただきました。

第72回全人同教（新潟大会）の大会テーマは「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」です。加え

て、地元テーマは「問い続け 求め続ける『かかわる同和教育』～雪国新潟から 熱と光を全国へ～」です。

この『報告・資料集』に掲載されている、本県のお二人のレポートを含め、122本の実践事例は、これらのテーマに迫る内容です。是非、人権教育の充実のために役立てていただきますようお願いいたします。

なお、レポートの詳しい内容は、「第46回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会『記録集』」にも掲載しています。

●「いきいきフェスタに」関わって分かったこと、そして願い～人権劇団「チームえがお」の活躍と人権啓発の仕掛け～

米子市五千石地区人権・同和教育推進協議会
会長 湯原 剛文 さん

●差別の現実がわからなくても人権教育は成立するのか？

鳥取県立鳥取中央育英高等学校
教諭 岡垣 祐二 さん

◆お詫びと訂正

2021年9月に発行の「県人教だより『ふれあい（第175号）』」において、次の誤りがございました。お詫び申し上げます、ここに訂正いたします。

〈訂正箇所①〉 P.1

（誤）第46回人権尊重者会を実現する鳥取県研究集会
書面開催にて実施

（正）第46回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会
書面開催にて実施

〈訂正箇所②〉 P.2

（誤）「いきいきフェスタに」関わって分かったこと、そして願い
～人形劇団「チームえがお」の活躍と人権啓発の仕掛け～

（正）「いきいきフェスタに」関わって分かったこと、そして願い
～人権劇団「チームえがお」の活躍と人権啓発の仕掛け～

おしらせ

■第73回全国人権・同和教育研究大会(奈良大会)について

来年は、全国水平社創立100周年となる2022年。奈良県を会場に「第73回全国人権・同和教育研究大会」が下記のとおり開催されますのでお知らせいたします。

- ◆スローガン 「むなつき坂をこえて、すべての人を包摂する社会の構築を奈良から」
- ◆コンセプト 「新しい様式によるコンパクトで持続可能な大会」
「70年におよぶ部落問題の解決を図る教育を振り返りつつ、リスペクト・多様性・寛容性をキーワードに、社会の変化や状況を鋭敏に捉え、20年後を展望できる人権教育・啓発の創造」
- ◆期 日 2022年(令和4)年11月26、27日の2日間
- ◆会 場 奈良市・生駒市・大和郡山市・橿原市の4市
- ◆大会規模 1万人余予定

「むなつき坂をこえて」について

奈良県同和教育研究会(奈同教)は、同和教育副読本『なかま』を発刊しています。この『なかま』が発刊された翌年(1961)に、奈同教結成10年を記念して、『むなつき坂をこえて』が発刊されています。この冊子

のまえがきに「むなつき坂をこえて」に関する記述があります。詳しくは、「奈良県人権教育研究会」のHP内の「奈良県の同和教育の歩み」に述べられていますので、ご覧ください。

URL : <http://www.nazinkyo.com/about/step.html>

■第47回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会について

来年度、第47回研究集会は下記のとおり、鳥取市を会場にして、「対面形式での開催」※を計画中です。

- ◆テ ー マ 人権尊重社会の実現に向けて、研究と実践を交流しよう
- ◆期 日 2022(令和4)年8月3日(水)※
- ◆会 場 とりぎん文化会館 梨花ホール 他7会場※
- ◆主 催 鳥取県人権教育推進協議会
第47回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会実行委員会
- ◆大会規模 1,500人を予定※

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、感染症予防対策のために、規模や会場、時間等を変更する場合があります。

編集後記



昨年度に引き続き、新型コロナウイルスに翻弄され、ほぼ全ての活動が「例年どおり」とはいかず、多くの方々の知恵やアイデアをいただきながら、日々取り組んでいます。しかしながら、今までとおりにはできない、または過去の経験が使えないからこそ、「目的は何か」「大切にすべきことは何か」などを改めて確認することができたように思います。

特に、本研究集会の特色でもある「討議を通しての実践の交流」が、2年続けて行うことができませんでしたが、これこそ今後も大事にしていきたい学びであることを再認識できたように思います。

ところで、県人教事務局が県民ふれあい会館3階に引っ越して1年経ちました。約3m×6mという極めて狭い部屋で、室内移動は、カニ歩き状態です。初めて来局された方は、あまりの狭さに驚かれます。少し「密」ではありますが、この「密」という漢字には「親しい」という意味もあり、私たち事務局員は、互いにつながり合い、親密に語り合いながら日々取り組んでいます。引き続きご支援とご協力をお願いいたします。